

令和 7（2025）年度
教職課程 自己点検・評価報告書



令和 8（2026）年 6 月
福島学院大学

教職課程の自己点検・評価にあたって

本学は、福祉学部こども学科に教職課程を設置し、幼稚園教諭の養成を行っている。教職課程に加え保育士養成課程を併設しており、幼稚園教諭養成を主たる目的とする学科として、入学段階から免許状及び資格取得を見据えた教育を展開している。

近年、幼保連携型認定こども園における保育教諭の役割は一層重要となっており、幼稚園教諭免許状及び保育士資格の双方を有する人材の養成が強く求められている。このような社会的要請を踏まえ、本学では、教職課程及び保育士養成課程を一体的に捉え、学生が専門的知識及び実践的技能を段階的に修得できるよう、教育課程及び指導体制の充実に努めている。

一方で、教職課程及び保育士養成課程の履修は、教育実習及び保育実習をはじめとして、学生に相応の学修負担を伴うものである。そのため、本学では、学科教員を中心に、履修指導、実習指導、学生生活支援及びキャリア支援を組織的に行い、学生一人ひとりの状況に応じたきめ細かな支援に努めている。

本自己点検・評価においては、以上のような本学教職課程の特性を踏まえ、教員養成の目的・目標、教育課程、指導体制、学修成果及び卒業後の進路状況等について確認し、現状の取組を適切に把握するとともに、今後の改善に資する課題を明らかにするものである。

この自己点検・評価を通じて、本学における教職課程の質保証を図るとともに、地域の教育・保育を担う人材養成機能の一層の充実に努めていく。

福島学院大学

学長 遠藤 克弥

I. 教職課程の現況及び特色

福島学院大学

教職課程認定学部・学科	福祉学部 こども学科
入学定員	40 名
収容定員	160 名
教職免許状の種別	幼稚園教諭一種免許状

1. 現況

基本情報

大学名・学部・学科	福島学院大学 福祉学部 こども学科
所在地	福島県福島市宮代字乳児池 1 番地 1

学生数

(令和 7 (2025) 年 5 月 1 日現在)

学部・学科	入学定員	収容定員	学生数
福祉学部 こども学科	40 名	160 名	139 名

(令和 8 (2026) 年 5 月 1 日現在)

学部・学科	入学定員	収容定員	学生数
福祉学部 こども学科	40 名	160 名	140 名

教員数

(令和 7 (2025) 年 5 月 1 日現在)

学部・学科	福祉学部 こども学科	14 名
-------	------------	------

(令和 8 (2026) 年 5 月 1 日現在)

学部・学科	福祉学部 こども学科	12 名
-------	------------	------

2. 特色

本学は昭和 41（1966）年 4 月に開学。教育基本法、及び学校教育法に基づき、学校法人福島学院創立者の信念である「真心こそすべてのすべて」という建学の精神に沿って、真心（Sincerity）、思いやり（Hospitality）を涵養し、社会に有用な人材を育成することを目的としている。

福祉学部こども学科は、教育・福祉両面に渡る発達支援、子育て支援を担う専門職を目指し、乳幼児期を中心とした保育及び幼児教育に関する教育研究を行い、将来的に保育教諭、幼稚園教諭ならびに保育士として指導的役割を担うことのできる人材を育成することを明示している。

学修の特色は以下のように設定している。

（１）保育・教育に加え、児童福祉・社会福祉も考える

発達障害や虐待問題など、複雑で多様化する子育てを取り巻く問題に積極的に取り組めるよう、保育や教育だけではなく、福祉や心理学的側面からも「こども」への理解を深める。

（２）保育界のリーダーとして活躍できる高い専門性を身につける

保育・福祉・教育の理念と専門知識及び専門技術を学ぶとともに、ゼミナールにおいて子どもと関連付けたテーマで研究を進め、各分野の課題抽出と論理的思考の展開から、より高い専門性を身につける。

（３）「幼稚園教諭一種免許状」と「保育士資格」を生かして子どもと保護者を支援する

卒業と同時に幼稚園教諭一種免許状と保育士資格、社会福祉主事任用資格の取得が可能である。将来は保育園・幼保連携型認定こども園・乳児院・児童養護施設などの児童福祉施設等での子どもと保護者の支援、幼稚園での幼児教育を実践し、管理的立場から保育界を先導できる人材への成長を目指す。

https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/

II. 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

本評価は、教職課程に係る自己点検・評価を実施するにあたり、文部科学省の定める「教職課程自己点検評価に関する指針」及び関連する基準に基づき、基準領域ごとに整理したものである。

各領域においては、取組内容（評価の観点）に照らし、本学の実施状況及び自己評価並びに根拠資料を明確にするとともに、課題及び改善方策を整理し、教職課程の質の保証及び向上を図ることを目的として実施する。

なお、評価は、次に掲げる基準領域ごとに、次の評価基準により行う。

【基準領域】

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取組

基準領域 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

基準領域 1-2 教職課程に関する組織的工夫

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準領域 2-1 学生の確保・育成

基準領域 2-2 キャリア支援

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準領域 3-1 カリキュラム編成・実施

基準領域 3-2 実践的指導力・地域連携

総合評価

上記各基準領域における評価結果を総合的に勘案し、学部・学科教職課程の実施状況について総合評価を行う。

【評価基準】

A	十分に対応・取組ができている。
B	対応・取組が一部不十分である。
C	対応・取組ができていない。

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取組

基準領域 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

No	取組内容（評価の観点）	実施状況	評価	根拠資料
1	教職課程教育の目的・目標を「ディプロマ・ポリシー」及び「カリキュラム・ポリシー」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。	こども学科では、本学学則における教育目的に基づいて三つのポリシーが策定されており、学科の目指す教育・保育者養成について、本学ウェブサイト及び冊子印刷物「こども学科の教育」、学生便覧等にて公表している。 学生に対しては、オリエンテーションや、成績発表時に行われる「履修カルテ」の記入や WebClass（学修成果可視化システム）によるふり返り等の指導の際に、繰り返し周知を行っている。	A	・本学ウェブサイト （ホーム＞学部・学科＞こども学科＞こども学科の教育） https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/ ・Campus Life（学生便覧）
2	育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。	こども学科教員に対しては学科 FD 研修会等において、ディプロマ・ポリシーと各教育科目との有機的な関連づけを意図した活動を行っており、教員間での共有と、教育内容の改善へつなげている。 また、「教員養成カリキュラム及び教職指導委員会」を定期的を開催し、教育内容の点検及び改善等について審議する機会を設けている。	A	・こども学科 FD 研修会実施報告書 ・「教員養成カリキュラム及び教職指導委員会」議事録
3	教職課程教育を通して育もうとする学修成果を、「ディプロマ・ポリシー」を踏まえて具体的に示すなど、教職課程教育の目的・目標の可視化を図っている。	カリキュラムツリーと、全てのシラバスには「ディプロマ・ポリシー」に示す、卒業までに身に付けたい諸能力と各授業科目との関連を明記し、履修指導に活用している。	B	・本学ウェブサイト （ホーム＞学部・学科＞こども学科＞こども学科の教育） https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/

福島学院大学

				・ 本学ウェブサイト (ホーム>学部・学科 >こども学科>シラバス) https://portal.fukushima-college.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
--	--	--	--	---

課題	改善方策
各授業科目の授業計画（シラバス）において到達目標とともに、授業を通して身につけたい能力について示すことになっているが、非常勤を含めた全教員に対するカリキュラムツリー上の科目配置への理解が徹底されていないため、一部のシラバスではカリキュラムツリー上の位置づけと整合性が取れていないものがある。	授業計画（シラバス）の作成依頼時に、カリキュラムツリーやディプロマ・ポリシーに示した内容と各授業科目との関連について、丁寧に周知する他、非常勤講師や兼任教員に対する研修機会を設けるなどの対応が必要である。

基準領域 1-2 教職課程に関する組織的工夫

No	取組内容（評価の観点）	実施状況	評価	根拠資料
1	教職課程認定基準をふまえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。	専任教員配置については、課程認定基準に対して余裕をもって配置している他、福祉学部こども学科と、短期大学部保育学科の両学科の専任教員が相互に兼任することで担当科目の調整が適切にできている。また、両学科間の連携や調整は、事務局教務課、こども・保育学科実習指導室がその役割を果たしている。	A	・ 本学ウェブサイト（ホーム>大学案内>情報公開>各情報・報告） https://www.fukushimacollege.ac.jp/disclosures_report
2	教職課程の運営に関して、全学組織（教員養成カリキュラム及び教職指導委員会）と両学科とで、適切な役割分担がなされている。	本学短期大学部保育学科とともに、教職課程の運営に関して、「教員養成カリキュラム及び教職指導委員会」、「教育・保育実習指導委員会」を設置し、こども・保育学科実習指導室、事務局教務課と連携して教職課程を運営しているが、特に役割分担は設けていない。両学科の「教育実習」については、実施時期、事前・事後指導内容等について確認や調整を行い、共通理解のもとで進めている。	B	・ 各種委員会設置規程 ・ 教員養成カリキュラム及び教職指導委員会議事録 ・ 教育・保育実習指導委員会議事録
3	教職課程の授業を行うための施設・設備が、ICT 教育環境も含めて適切に整備されている。	無線 LAN 環境の整備は進んでいるが一部使用できない教室がある。また、学生の BYOD については 3 年次生以上としているが、次年度以降は入学時に実施する計画である。	B	・ 本学ウェブサイト（ホーム>学部・学科>こども学科>シラバス） https://portal.fukushima-college.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
4	教職課程の質的向上のため、授業評価アンケートの活用を始	授業評価アンケートは、前後期末に実施し、授業担当者に結果を振り返り、課題の把握や改善計画等	A	・ こども学科 FD 研修実施報告書

福島学院大学

	め、FD・SD の取組を展開している。	について報告書の提出を義務づけている。FD については、全学で実施しているものの他、学科独自でテーマを設定し年 4 回実施している。		
5	教員養成の状況についての情報公表を行っている。	教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 に規定する情報、教職課程 自己点検・評価（教育職員免許法施行規則第 22 条の 7 及び 8）について、毎年本学ウェブサイトで公表している。	A	・本学ウェブサイト（ホーム>大学案内>情報公開>評価） https://www.fukushimacollege.ac.jp/disclosures_evaluation/ ・本学ウェブサイト（ホーム>大学案内>情報公開>各情報・報告） https://www.fukushimacollege.ac.jp/disclosures_report
6	学科（実習指導室を含む）と事務局教務課とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検・評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能している。	教職課程への理解や関心のレベルについては教職員間に温度差があり、点検・評価の作業については、一部の管理職者に依存している状況で組織的とは言えない。	B	・各種委員会設置規程

課題	改善方策
教員養成カリキュラム及び教職指導委員会については、構成員の数や質からすると、審議体として機能させるのが難しい状況で、開催も年に 1、2 回と機能的とは言えない。	今年度から、構成員を教職課程の専門科目を担当する教職専任教員に絞り、開催の予定。教職員の教職課程への理解や情報共有を深めた上で、適切な議論や点検評価等ができる委員会を目指す。
ICT 利活用に関していえば、学内の無線 LAN 環境の整備は進んでいるが、現在学生が授業で使用している教育用コンピュータは老朽化し、まもなく使用が困難になることが予想されている。	学生が授業や卒業研究等で使用するパソコンについては、BYOD 化の方向で検討が進んでいる。今後は学生への経済的負担軽減や、使い勝手の良い PC の選定、安価で販売できる業者探しなどを進めていく。

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準領域 2-1 学生の確保・育成

No	取組内容（評価の観点）	実施状況	評価	根拠資料
1	「アドミッション・ポリシー」等を踏まえて、本学の教職課程を学ぶにふさわしい学生像を設定し、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施している。	こども学科の教育目的に基づいた「アドミッション・ポリシー」を策定し、入学選抜要項に明記するとともに、本学ウェブサイトや「大学案内」等で公表し、オープンキャンパス等を通じて高校生や保護者に説明している。また、入学選抜の面接試験や小論文のテーマ、科目試験の作成においても「アドミッション・ポリシー」を踏まえて作成している。	A	・ Campus Life（学生便覧） ・ 本学ウェブサイト（ホーム>学部・学科>こども学科>こども学科の教育） https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/ ・ 本学ウェブサイト（ホーム>入学選抜>福祉学部） https://www.fukushima-college.ac.jp/admission_welfare_index/ ・ 大学案内 ・ 入学選抜要項
2	「カリキュラム・ポリシー」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定している。	「カリキュラム・ポリシー」及び「ディプロマ・ポリシー」に基づき、幼稚園教諭・保育士等の養成を目的として、各学期末の成績発表時及び履修登録期間等において履修指導を実施している。また、教職課程を学科の教育課程に適切に位置付け、学生の学修状況を確認しながら、教職課程の履修及び免許・資格取得に向けた継続的な支援を行っている。なお、教職課程の履修については、学科の教育課程との一体的な運用を基本としており、履修開始や継続に係る一律の基準を設けるのではなく、学	B	・ 本学ウェブサイト（ホーム>学部・学科>こども学科>こども学科の教育） https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/ ・ Campus Life（学生便覧）

福島学院大学

		生の状況に応じた個別の指導及び支援を行っている。		
3	「ディプロマ・ポリシー」等を踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れている。	こども学科では入学定員 40 人の小規模で手厚い教育指導ができる体制をとると同時に、教育内容により、開講人数を更に少人数に調整しながら授業を実施している。	A	・ 本学ウェブサイト (ホーム>学部・学科>こども学科>シラバス) https://portal.fukushima-college.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
4	「教職課程履修カルテ」を活用する等、学生の適性や資質に応じた教職指導が行われている。	実習指導においては学生の個別の課題に応じた指導をきめ細かく実施している。 また、保育・幼稚園教職実践演習では学生個々の課題に応じ、「履修カルテ」を活用した補完指導を実施している。	A	・ 「履修カルテ」

課題	改善方策
現在は、幼稚園教諭免許状取得を前提として入学してくる学生が大半であるため、履修開始や継続の基準は設けていない。また、科目履修で小学校教諭取得を希望する学生に対しても基準は設けていない。 現在は、学生の学習意欲や学修状況などから、面談により、単位修得の見通しがあるか判断している。	今後、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格に加え、科目履修等で小学校教諭免許状の取得希望があった場合に、学力や単位の修得状況等、学修を完遂できる可能性について評価する基準が必要か今後の実績を踏まえて検討する。

基準領域 2-2 キャリア支援

No	取組内容（評価の観点）	実施状況	評価	根拠資料
1	学生の教職に就こうという意欲や適性を把握している。	1, 2 年次生にはクラスアドバイザー等、3, 4 年次生にはゼミナール担当教員による個人面談を実施、進路の希望等の相談に応じている。	A	・個人面談記録票
2	学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。	実習指導、学科教員による個別面談指導等を通じてキャリア支援は適切に実施している。	A	・個人面談記録票
3	教職に就くための各種情報を適切に提供している。	学生支援・キャリア支援課主催の就職セミナーや、求人票の公開、学科キャリア支援担当教員からの情報提供等を通じて、就職に関する情報は適切に学生や教員へ提供されている。	A	・クラスセミナー実施計画
4	教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。	教育現場での体験を実施する他、現職の保育教諭からの講話等を通じ、教育現場への理解を深めると同時に、学生への意識づけに効果を挙げている。	A	・本学ウェブサイト (ホーム>学部・学科>こども学科>シラバス) https://portal.fukushima-college.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx 「幼稚園教育実習」 「認定こども園基本実習」)
5	キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。	学生支援・キャリア支援課主催のセミナーや、保育教育関連団体主催のセミナー、実習指導において、卒業生や現職の教員等から情報を得る機会を数多く設けている。	A	・クラスセミナー実施計画 「幼稚園教育実習」

課題	改善方策
現在、保育者不足から専門職に限って言えば、希望の職場に就職するのは容易であるが、公務員採用試験については採用数の減少もあり、狭き門である。今のところ希望者には個別に助言指導しているものの、合格率は高くないので、対策ができれば実施したい。	現在、学生支援・キャリア支援課が実施している筆記試験対講座は、行政職の採用試験に応じたものになっている。専門職については試験内容が大きく異なるため、正課外で専門職の公務員試験対策について講座の実施を検討する。

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準領域 3-1 カリキュラム編成・実施

No	取組内容（評価の観点）	実施状況	評価	根拠資料
1	教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行っている。	建学の精神、こども学科の教育目的を踏まえ、誠実さと、論理的思考力、管理者として必要な能力を養成するための授業科目を、本学独自の科目や教養教育科目に設けている。	A	・本学ウェブサイト （ホーム＞学部・学科＞こども学科＞こども学科の教育） https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/
2	学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。	こども学科では、教職課程の他に保育士養成の指定科目、教養教育科目、本学独自の科目すべてを含めたカリキュラムツリーを作成し、教育課程の系統性を示している。教職課程についてはコアカリキュラムを踏まえた編成を行っている。	A	・本学ウェブサイト （ホーム＞学部・学科＞こども学科＞こども学科の教育） https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/
3	教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今日の教育・保育現場に対応する内容上の工夫がなされている。	教育課程の改正時には、情勢に対応した授業科目を新設する他、必要に応じて既存の授業に内容を反映させるなど、柔軟に対応している。	B	・本学ウェブサイト （ホーム＞学部・学科＞こども学科＞シラバス） https://portal.fukushima-college.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
4	今日の教育・保育現場における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が十分可能となるように、適切な指導が行われている。	ICT 教育機器の配備及び、学内の ICT 環境設備については、十分とは言えない。 また、幼児教育における ICT 利活用の方法については教員による理解が進んでいないこともあり、十分に浸透していない。	B	・本学ウェブサイト （ホーム＞学部・学科＞こども学科＞シラバス） https://portal.fukushima-college.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

福島学院大学

5	アクティブ・ラーニングやグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。	アクティブ・ラーニングの教育方法については全学レベルで奨励しており、授業担当者にはシラバスに明記し実施を促している。	A	・ 本学ウェブサイト (ホーム>学部・学科>こども学科>シラバス) https://portal.fukushima-college.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
6	教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法等を学生に明確に示している。	すべての授業科目について、学修内容や評価方法等を明記し、学生に説明を行うよう授業担当者に義務付けている。	A	・ 本学ウェブサイト (ホーム>学部・学科>こども学科>シラバス) https://portal.fukushima-college.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
7	教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするように指導を行っている。	教員免許状取得のための要件等の周知は実習指導担当者を通じて実施するとともに、履修指導については「履修モデル」を活用し適切に実施している。	A	・ 本学ウェブサイト (ホーム>学部・学科>こども学科>シラバス) https://portal.fukushima-college.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx 「幼稚園教育実習」 ・ 本学ウェブサイト (ホーム>学部・学科>こども学科>こども学科の教育) https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/
8	「教職課程履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細やかな教職指導を行い、	実習指導においては学生の個別の課題に応じた指導をきめ細かく実施している。	A	・ 本学ウェブサイト (ホーム>学部・学科>こども学科>シラバス)

	教職実践に関する科目の指導にこの蓄積を活かしている。	また、保育・幼稚園教職実践演習では学生個々の課題に応じ、「履修カルテ」を活用した補完指導を実施している。	https://portal.fukushima-college.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx 「保育・幼稚園教職実践演習」) ・こども学科履修カルテ
--	----------------------------	--	---

課題	改善方策
教育課程の編成・実施については、社会情勢の変化に対応し取り入れていく姿勢で取り組んでいるが、ICT 利活用に関する内容については、幼児教育における教育方法としての ICT に関する知見に乏しいことと、設備投資にかかる予算の関係もあり、対応は遅れている。	幼児教育における ICT 利活用に関する研究活動や、情報収集を学科の課題研究として実施することや、関連学会に所属している教員からの情報収集を行いながら、具体的な教育方法と必要な機器備品、設備等を検討し、予算化する。

基準領域 3-2 実践的指導力・地域連携

No	取組内容（評価の観点）	実施状況	評価	根拠資料
1	取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。	できる限り多く、保育現場における職業理解や子ども理解を深めるために、指導法の各授業科目では模擬保育の機会を多く実施しているほか、教職課程以外にも認定こども園基本実習を設け、実践的指導力の育成に努めている。	A	・ 本学ウェブサイト（ホーム＞学部・学科＞こども学科＞シラバス） https://portal.fukushima-college.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx 「幼稚園教育実習」 「認定こども園基本実習」 ・ 本学ウェブサイト（ホーム＞学部・学科＞こども学科＞こども学科の教育） https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/
2	様々な体験活動（教育、ボランティア、地域の子育て支援活動等）とその振り返りの機会を設けている。	本学附属こども園や実習先を中心に、保育施設等におけるボランティアを学生に奨励している。 実習指導においては、学生による小学校での読み聞かせを実施し、ふりかえりの機会も設けている。	A	・ 本学ウェブサイト（ホーム＞学部・学科＞こども学科＞シラバス） https://portal.fukushima-college.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx 「幼稚園教育実習」
3	地域の子どもの実態や幼稚園等における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。	教育実習の前には、実習指導の時間に実習先等の施設長等から講話をいただく機会を設けている。しかし、内容については担当者によって、変わってしまうことがある。	B	・ 本学ウェブサイト（ホーム＞学部・学科＞こども学科＞シラバス） https://portal.fukushima-college.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_

福島学院大学

				SyllabusKensaku.aspx 「幼稚園教育実習」
4	大学ないし学科等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っている。	本学は福島県及び福島市教育委員会と連携協定を結んでおり、現職教員の研修等に講師や、審議会の委員を派遣する等の協力を行っている。	A	・公文書（委任状等）
5	学科（実習指導室を含む）と教育実習協力校とが教育実習の充実を図るために連携を図っている。	実習指導室では実習先への文書の発信や収受を行う他に、実習先と実習担当教員との連絡が円滑に取れるよう調整を行っている。 学科では実習先との意見交換会を実施し、実習内容や実習生の指導方法に関する情報共有や改善意見の聴取等を行っている。	A	・業務組織規程

課題	改善方策
地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について講話等をいただく適任者が見つからないことと、予定の調整も難しい。	特別講座や、実習指導、クラスセミナー等での講話を想定し、教育委員会等を通じて紹介をお願いすることも検討したい。

III. 総合評価

福祉学部こども学科は、定員 40 名という少人数による教育体制であり、教育理念及び学修目標等に関しては教員・学生ともに共通理解が図られ、基準領域 1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」は十分に満たされていると自己評価している。少人数教育の利点はあるものの、小規模学科として専任教員の余裕ある配置は容易とはいいがたく、ゼミナールなど、より少人数での実施が有効であると思われる授業の実施に苦慮する場面もある。今後、新たに開設された授業科目の担当者を配置するにあたって、非常勤講師の活用を含め、教員の手配が課題である。

基準領域 2「学生の確保・育成・キャリア支援」については、福島県内の私立 4 年制大学として唯一、男女共学で幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の取得ができる強みを基に、教職課程を目指す学生の確保に鋭意努め、直近の就職率に関しても 100%、うち、幼稚園教諭等専門職への就職が 86.3%と高い比率を誇っており、この点も十分に満たされていると自己評価している。

基準領域 3「適切な教職課程カリキュラム」については、こども学科が設置された平成27（2015）年 4 月以降、法改正による平成31（2019）年度の再課程認定時の改正と、事後調査対応による令和 4（2022）年度の改正を行い、これに合わせて、保育士養成課程を含めた学科の教育課程全体の見直しも不断に実施して来ている。勿論、各教科目の内容については、学科主任、学科長による授業計画（シラバス）のチェックが行われ、コアカリキュラムやモデルカリキュラムなど法令に即しているものか確認作業を行っている。また教育課程の編成については学内組織として、「教員養成カリキュラム及び教職指導委員会」、「こども学科科内会議」、「教学委員会」、「教授会」等に諮る他、「実習施設との意見交換会」、「学科評議員会」など学外の学識経験者や現職の保育関係者からの意見も取り入れながら柔軟に実施している。これらの観点からも要件は十分に満たされていると自己評価している。

以上、福祉学部こども学科では専任教員全員の共通理解と実践のもと、教職課程の質の保証や改善に取り組み一定の成果を上げてきたといえる。

今後、幼児教育の世界において一層の進歩と高度化が進むICT環境に対応するための教育環境と教授する人材の確保が課題となる。

IV. 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本学における教職課程を有する学科は、福祉学部こども学科であり、幼稚園教諭免許状及び保育士資格の取得を目的とした教育課程を編成している。このため、自己点検・評価については当該学科を中心として実施することとした。

自己点検評価の項目内容は、「教職課程の質保証のためのガイドライン検討会議」により、改正法に沿って作成された「教育課程の自己点検・評価及び全学的に教職課程を実施する組織に関するガイドライン」を参考に決定している。

報告書の作成については学部長、学科長がとりまとめ、両学科を跨ぐ組織として設置されている教職課程担当教員からなる「教員養成カリキュラム及び教職指導委員会」に諮問する。その後、「自己点検・評価委員会」において了承を得たうえで、「理事会」の承認を経て、公表する運びとしている。

今後のプロセスとしては、分析評価し導き出した諸課題について、改善計画を策定し、教職課程のより一層の充実に繋げていくこととする。

V. 現況基礎データ一覧

(令和 8 (2026) 年 5 月 1 日現在)

法人名 学校法人福島学院					
大学・学部・学科名称 福島学院大学 福祉学部 こども学科					
1. 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数					
① 令和7（2025）年度卒業者数		42名			
② ①のうち就職者数		40名 （幼稚園教諭1名・保育教諭12名・保育士24名・一般職3名）			
③ ①のうち教員免許状取得者の実数		37名 （幼稚園教諭一種免許状）			
④ ②のうち教職に就いた者の数		13名 （幼稚園教諭1名・保育教諭12名）			
⑤ ④のうち正規採用者数		13名			
⑥ ④のうち、臨時的任用者数		0名			
2. 教員組織 （括弧内は令和7年度数）：名					
職名	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	6（8）	4（4）	2（2）	0（0）	0（0）
相談員・支援員など専門職員数		2名（2名）			

自己点検・評価委員会
教員養成カリキュラム及び教職指導委員会